

3) 資源循環・環境重視型社会

- 都市と農村で資源を有効に循環利用する持続的な社会の構築が求められています。
- 農業では環境への負荷の少ない環境保全型農業に取り組むことが期待されています。

地球温暖化、オゾン層の破壊、ダイオキシン類や内分泌かく乱物質の問題、廃棄物の処理など、環境に配慮した生産活動は社会の要請であるとともに責務となっており、資源を循環利用する持続的な社会を構築していくことが重要な課題となっています。

本市でも稲わら・もみがらと家畜排泄物の利用による堆肥づくりは現在各地で行われていますが、まだ小規模な施設で行われている段階です。

また本市には、全国的に有名な食品メーカーや多数の中小食品製造業も立地していますが、これらの食品製造業者から排出される有機物資源の循環利用システムの構築にも期待が集まっています。

農業分野でも化学合成農薬や化学肥料による環境への負担をできるだけ小さくした、環境保全型農業の取り組みが進められています。「新潟県特別栽培農産物認証制度」は、新潟県内で、化学合成農薬の使用回数及び化学肥料の使用量について、通常の栽培のおおむね5割以下に削減して栽培された農産物を、特別栽培農産物として県が認証する制度です。

信濃川・阿賀野川の最下流で河川水を利用する都市として、流域一体となって健全な水循環の保全に取り組んでいくことが今後の検討課題となっています。

■堆肥センター（味方酪農団地）



2 農業・農村の多面的機能

● 農業・農村の多面的機能

農業・農村は、食料等の農産物を国民に安定供給するという基本的な役割に加え、農業生産活動による国土の保全、水源かん養、自然環境の保全、良好な景観の形成、文化の伝承などの多面的機能を有しており、国民生活や経済の安定に重要な役割を果たしています。

● 新潟市の農業・農村の多面的機能の評価

本市においても、農業・農村は、食料等の農産物の供給以外にも、以下の環境面での貢献、地域社会の形成の役割等、多面的な機能を有しています。

環境への貢献

【洪水防止】

- 本市の約3万haの広大な水田とこれに係る用排水施設は、水稻の重要な生産基盤である一方、その貯水・遊水機能は、地域防災の面でも高く評価されています。
- 親松排水機場や新川河口排水機場、新井郷川排水機場等に代表される農業用の排水機が各々24時間体制で稼働し、水害に脆弱な低平地に立地する都市住民の財産・生命をも守っています。

【水資源かん養・水質浄化】

- 広大な水田から浸透した水は、地盤を支持しながら浄化され、清浄な地下水をかん養しています。地下水は、時間をかけて河川に還元され、河川の水量を安定的に保っています。
- 輪中地域では、信濃川、阿賀野川からの農業用水やフラッシング用水（浄化用水）が、用排水路網の水質浄化に寄与しています。

【有機性廃棄物処理（資源循環）】

- 田や畑の土中の微生物の力を有機物の分解に活かすことで、家畜排泄物や食品残さ等の有機資源を堆肥やバイオマスエネルギーとして活用することも進められています。

【大気浄化・気象緩和】

- 農地では、作物が生育することにより、気温・湿度を調節したり、大気を浄化したりしています。また、緑地・オープンスペースとして風の通り道となるなど、都市の気候緩和にも寄与しています。（水田の内部と外部との夏季における平均気温差：約2.5℃）

【生態系保全】

- 水田や畑では、自然との調和を図りながら適切にかつ持続的に管理されることにより、植物や昆虫・動物などの豊かな生態系を持つ二次的な自然が形成・維持されています。水田・畑の近代化とともに、環境保全型農業や水辺環境整備にも取り組んでいます。

【景観形成】

- 門田や夏井、満願寺のハザ並木、亀田や白根の果樹園、角田山を背景とした水田の風景、小須戸の信濃川沿いの桜並木など、地域の伝統的な農村景観が残されています。しかし、都市化の進展とともに景観資源が失われつつあります。

地域社会の形成・維持

【伝統文化継承】

- 白根大風合戦や角兵衛獅子、サンバイシ神楽、味方穀倉太鼓など、農村地域には、古くから伝統行事等が伝承されており、多くの地域文化を育んでいます。農業が営まれ、農家が存続することにより地域の伝統文化が引き継がれます。農家と新規住民との交流が図られれば、祭りや工芸品など地域固有の伝統文化が都市住民に伝えられ、地域住民の生活を質的に豊かにすることが期待できます。

【環境学習】

- 本市の農村地域は、自然の大切さを学ぶ体験学習の場としても活用されています。子供たちが自然の中でのびのびと遊びながら、人と自然の豊かな関わりを体験することができます。市内各所の小中学校では、学校教育田等を使って、小中学生による田植え、田んぼの生き物観察、稲刈り、野鳥観察などのプログラムが実施されています。

【ゆとりあるライフスタイル実現】

- 都市住民の間にはゆとりを求める新しいライフスタイルや価値観が生まれつつあり、自然との関わりを求める余暇活動やボランティア、定年後の生きがい探しなど、農村地域を訪れる人々が増えています。本市においても収穫農園や市民農園などを通じて、農業を体験する都市住民が増えつつあります。

【地域振興（交流拡大）】

- ゆとりや癒しを求める旅行ニーズの高まりの中で、農村地域において、美しい農村景観、伝統文化、伝統食、農作業、農村環境、農家との交流を楽しむグリーン・ツーリズムに対する関心も高まっています。本市においても美しい農村景観を背景としたレストランが人気を博しており、岩室では「稲刈りとはさがけ体験ツアー」が開催されています。今後、農村の地域振興の新たな展開として、農業・農村資源を活かした観光等サービス産業への期待が高まっています。

このように、地域の農業を振興し、農地や農村の営みを守っていくことは、新鮮な食材を安定的な供給というだけでなく、洪水防止や保健休養・やすらぎ機能、生態系の保全機能、伝統文化の保存機能、体験学習・教育機能等の発揮を通じて、本市の市民全体の豊かな暮らしに大きな役割を担っていくことにつながります。

参 考

新潟市における多面的機能の評価額

日本学術会議の手法に基づいた北陸農政局農村計画部の算定方法に準ずると、本市における多面的機能の評価額は約418億円と算出できます。

ここで経済評価している機能は、多面的機能全体の一部の機能に過ぎません。特に、金銭評価が困難な農業的自然が人々に与える豊かな心・ゆとり・癒し等の働きは、計量評価が難しい側面があります。

(百万円/年)

項 目	評価額
多面的機能	
1 洪水防止	17,559
2 水資源かん養	10,466
3 土壌浸食防止	1,129
4 土砂崩壊防止	0
5 有機性廃棄物処理	15
6 大気浄化	70
7 気候緩和	155
8 保健休養・やすらぎ	12,427
合 計	41,821
農業算出額 (H15)	76,060

*本市には、土砂崩壊の危険度の高い水田はないと想定しています。

3 農業者・市民の意向

市民の意向調査では、「農林漁業者」と「それ以外の市民」とともに、現在の自然環境を守り、安心して暮らせる保健・福祉の充実した都市を望んでいます。しかし、農村地域の整備のあり方では、都市住民が豊かな生態系の回復を最も望んでいるのに対し、農林漁業者は定住人口を確保する住宅地の整備を望んでいるなど、意向の差が見られます。

1 農業者の意向

『新潟市農業者意向調査（平成14年度）』の調査結果から見た、農業・農村に対する農業者の意向は次のようになっています。

1) 将来的な経営規模

経営規模については、「経営規模を拡大したい（7.1%）」が最も少なく、「現状のままでよい（52.2%）」が過半数を占めています。また、「経営規模を縮小したい（8.5%）」と「農業経営をやめたい（28.3%）」の消極的な意向が3割を超えています。

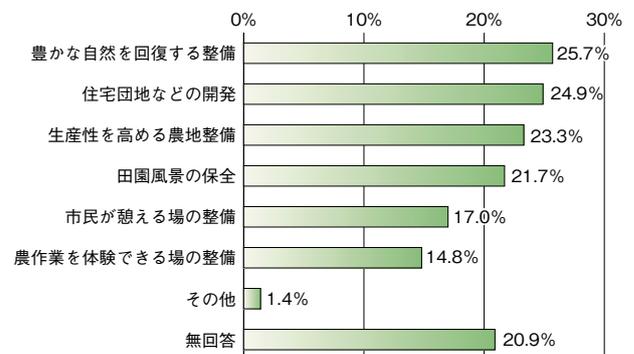
2) 農村地域の整備に望むもの

「トンボ・メダカ・ホタルなどが棲む豊かな自然を回復する整備（25.7%）」が最も多くなっていますが、他の回答も1割強～2割強の回答があり、回答結果は分散しています。

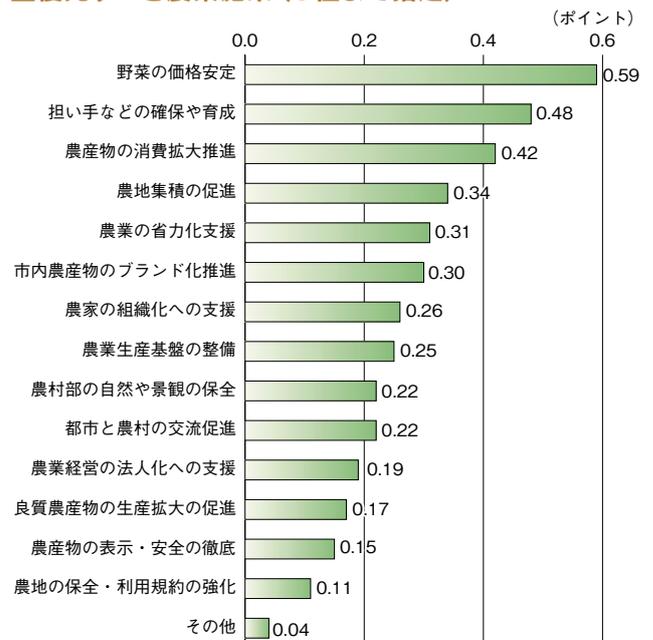
3) 農業施策の優先度※

最優先施策は「野菜の価格安定」となっています。これに「農業の担い手や後継者の確保や育成」、「農産物の消費拡大推進」、「農地集積の促進」の順で優先すべき施策が続いています。

■農村地域の整備に望むもの（複数回答）



■優先すべき農業施策（3位まで指定）



※ 各項目毎に、1位指定に3ポイント、2位指定に2ポイント、3位指定に1ポイントを与え、これを指定件数で除して平均得点（ポイント）を算出。

2 市民の意向

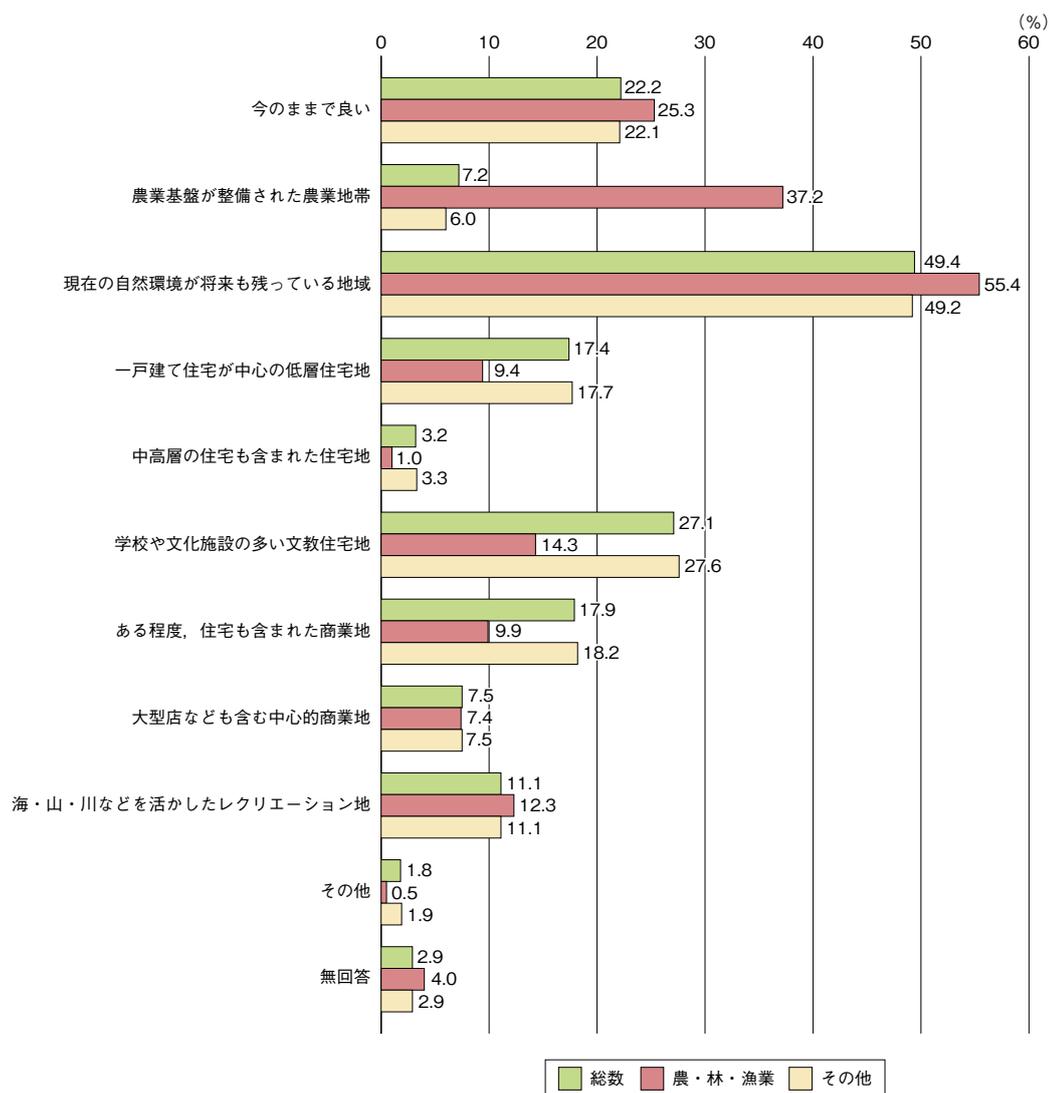
『第32回新潟市政世論調査（平成16年度、新市全域を対象）』の調査結果から見た、農業・農村に対する市民の意向は次のようになっています。

なお、『総数』とは、アンケートの対象となった20歳以上の約5,300人すべての方、『農・林・漁業』とは、自営業または家族従業者として農・林・漁業に従事している方、『その他』とは、総数のうち、上記の農林漁業に従事していない方を示します。

1) 将来望む居住地域の姿

『総数』、『農・林・漁業』、『その他』ともに「現在の自然環境が将来も残っている地域」が最も多く、「その他」が最も少なくなっています。また、「農業基盤が整備された農業地帯」は、農・林・漁業の回答は37.2%ありますが、その他の回答は6.0%となっています。

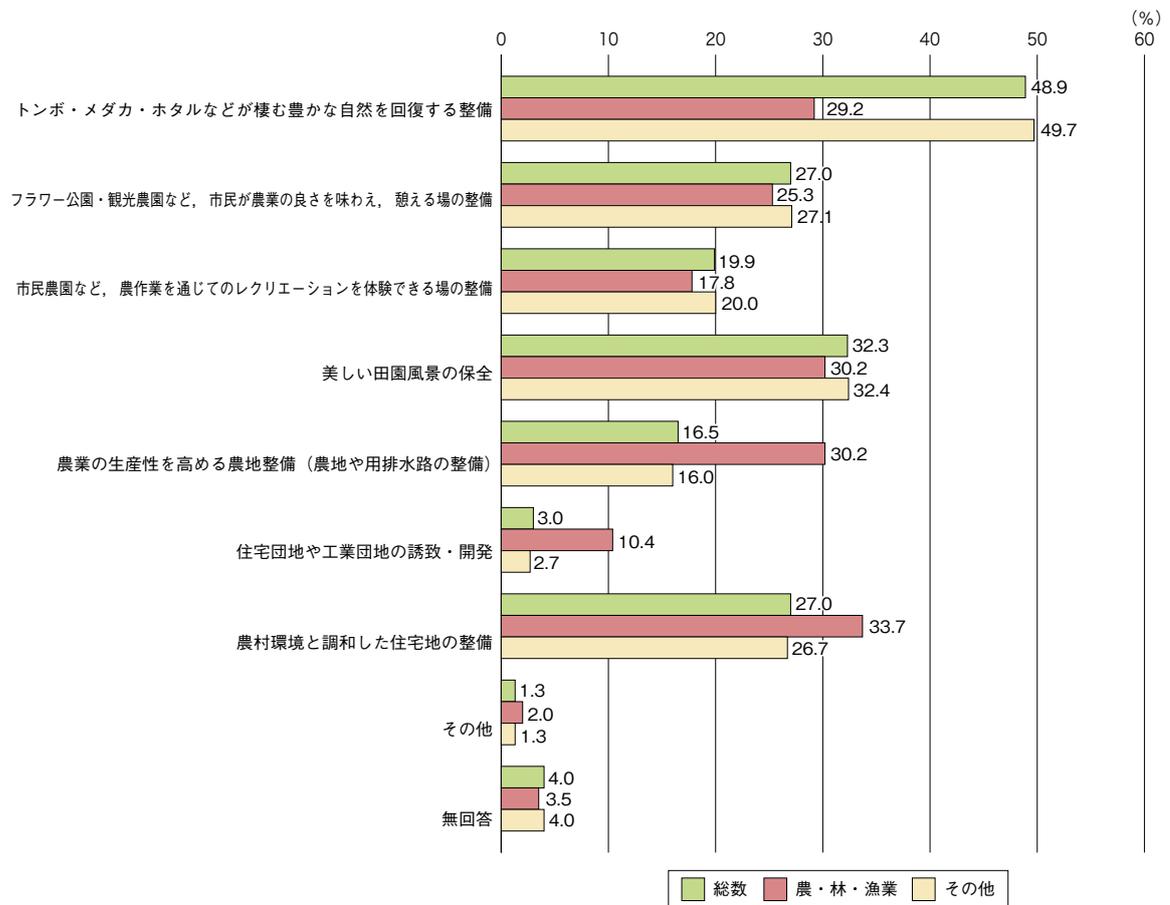
■ 将来望む地域の姿（複数回答）



2) 農村地域整備のあり方

総数、その他は「トンボ・メダカ・ホタルなどが棲む豊かな自然を回復する整備」が、農・林・漁業は「農村環境と調和した住宅地の整備」が最も多くなっており、最も少ないのは総数、農・林・漁業、その他とも「その他」を除くと、「住宅団地や工業団地の誘致・開発」となりました。また、「農業の生産性を高める農地整備」は、農・林・漁業の回答は30.2%ありますが、その他の回答は16.0%となっています。

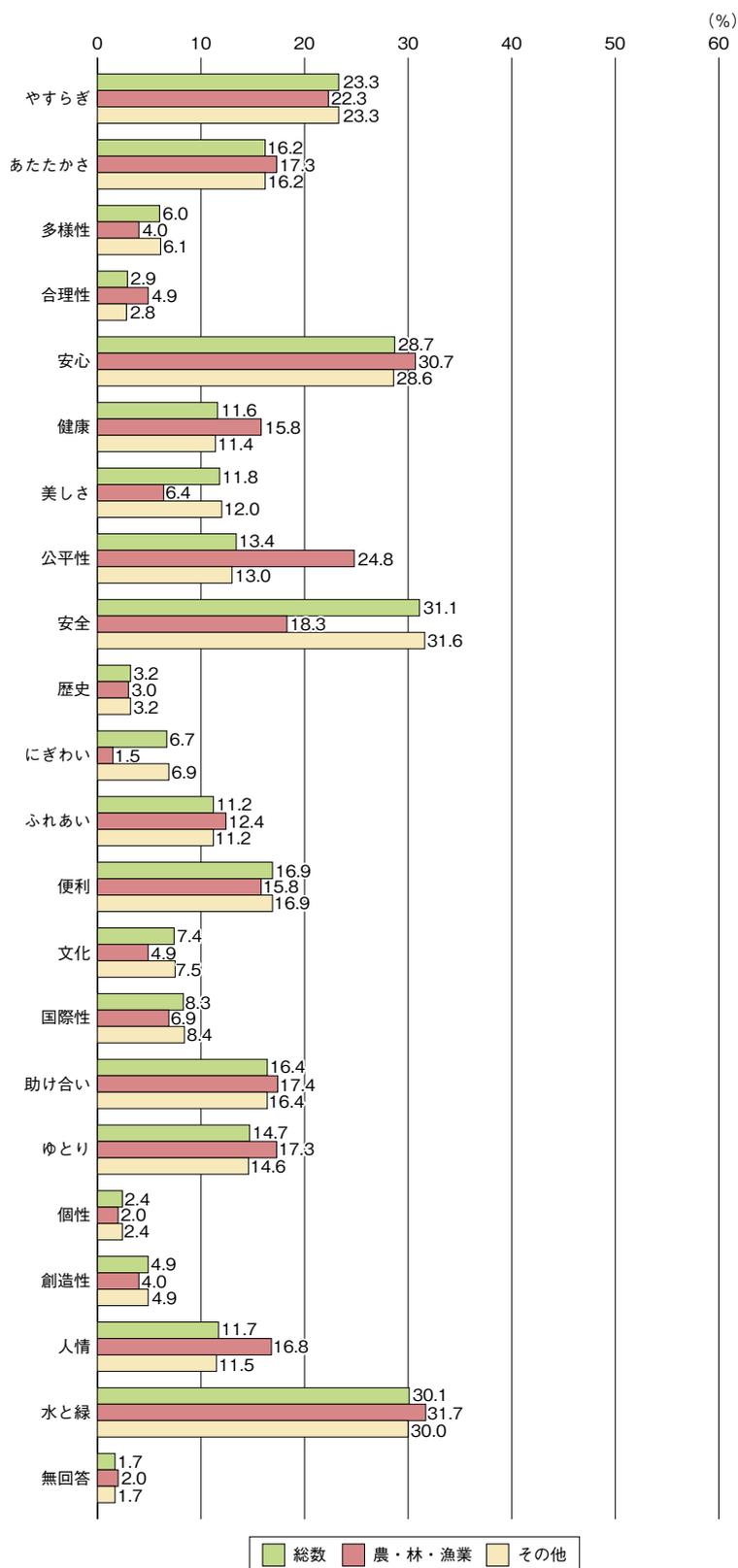
■農村地域の整備のあり方（複数回答）



3) 新・新潟市のまちづくりで大切にしたいこと

総数, その他は「安全」が, 農・林・漁業は「水と緑」が最も多くなっており, 最も少ないのは総数, その他が「個性」, 農・林・漁業が「にぎわい」となりました。また, 「安全」は, その他の回答は31.6%ありますが, 農・林・漁業の回答は18.3%となっています。

■ 新・新潟市のまちづくりで大切にしたいこと (複数回答)

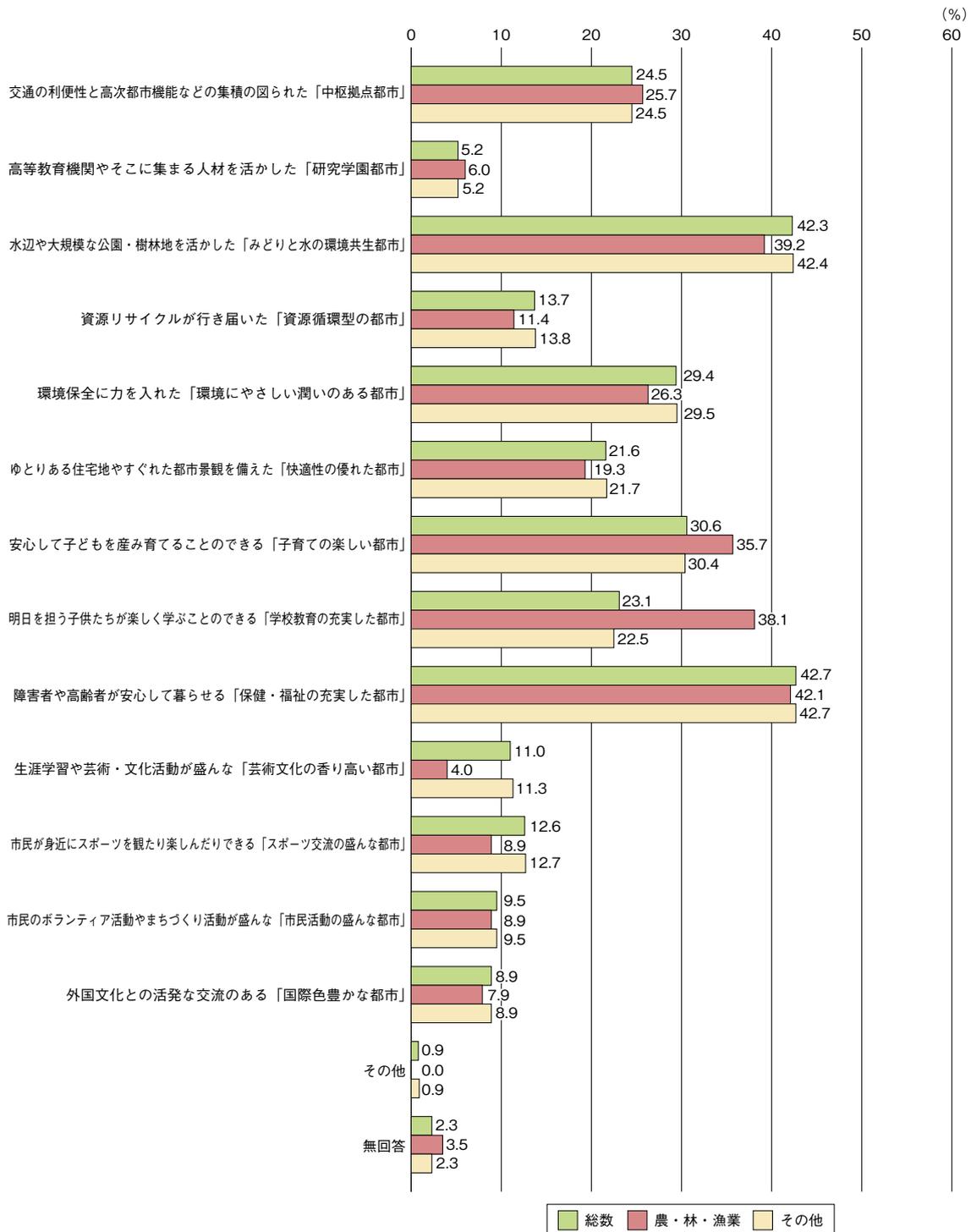


4) 新・新潟市の将来像

総数、農・林・漁業、その他ともに「障害者や高齢者が安心して暮らせる「保健・福祉の充実した都市」」が最も多く、次いで「みどりと水の環境共生都市」が、わずかの差で続いています。

最も少ないのは「その他」を除くと総数、その他が「高等教育機関やそこに集まる人材を活かした「研究学園都市」」、農・林・漁業が「生涯学習や芸術・文化活動が盛んな「芸術文化の香り高い都市」」となりました。また、「明日を担う子供たちが楽しく学ぶことのできる「学校教育の充実した都市」」は、農・林・漁業の回答は38.1%ありますが、その他の回答は22.5%となっています。

■新・新潟市の将来像（複数回答）



5) 新・新潟市が特に力を入れるべきこと

総数, その他は「高齢者福祉対策」が, 農・林・漁業は「農林水産業の振興」が最も多くなっており, 最も少ないのは総数, 農・林・漁業, その他とも「広報公聴活動」となりました。また, 「農林水産業の振興」は, 農・林・漁業の回答は49.0%ありますが, その他の回答は3.8%となっています。

■新・新潟市が特に力を入れるべきこと（複数回答）

